

令和元年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
たんぼぼ保育園

1、保育目標

- 健康で明るい子ども
- 豊かな心を持つ子ども
- 自分のことは、自分でできる子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 何故だろうと考え、物事に疑問を持つ子ども
- 自然に親しみ、愛することのできる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の言葉で話せる子ども

2、施設運営の重点課題

- 保育内容の充実
- 地域との交流の充実
- 郷土文化伝承の促進
- 地域の多様なニーズに合わせた子育て支援
- 風の子農園運営
- 保育園食育指導の充実
- 職員の資質向上

3、評価項目と取組み状況

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

自己評価項目		評価	取組み状況
1	保育内容の充実 ・たくましい子を育てるために、乳幼児の健全な発達を目指し、保育内容の充実を図る ・子どもの発達について理解し、一人ひとりの特性に応じた保育に取り組む。	B	・「たくましい子を育てる」保育について話し合い、計画・実行・反省を繰り返しながら保育を進めた。 ・一人ひとりの家庭環境や発達をしっかりと捉え保育に取り組んだ。
2	地域との交流の充実 ・地域の様々な人たちと交流しながら、思いやりや優しさなどの心の発達を促す。 ・地域の隠れた人材を発掘し、保育に生かす。	A	・地区4つの老人クラブ・自治会長・民生児童委員を保育園に及びして交流をした。3つの老人入所施設には、5歳児が出かけて交流した。 ・町内の千貫石公園に2回行って、巨木のブランコ、オタマジャクシなどに触れたり、お泊り保育

				では、衣川自然塾で、イワナのつかみ取りをしてから、塩焼きをして食べる体験をした。
3	郷土文化伝承の促進	・地域の昔から伝わる踊り「鬼剣舞」を保育に取り入れる	A	・5歳児が9月の地区敬老会・運動会で発表して、地域に貢献した。
4	地域の多様なニーズに合わせた子育て支援	・父母の勤務状況や地域の子育て家庭のニーズに応え、様々な保育を行う。 ・町関係・専門機関との連携を密にしながら、よりよい子育て環境を提供していく。	B	・延長保育・障がい児保育・一時保育・療育教室を行った。 ・町の保健師・療育教室・子育て支援センター・前沢明峰支援学校・サポートにじとの連携を図り、療育につなげた。
5	風の子農園運営	・風の子農園の身近な自然に触れながら、働くことを喜び、育てる喜び、食べ物に対する感謝の気持ちを育てる。	B	・地域の2つの畑に各年齢が野菜を育て、収穫した野菜でクッキングを楽しんだ。収穫祭では、収穫した野菜で「芋の子汁」「さつまいもご飯」を地域の方と一緒に食べ、感謝する心を育んだ。
6	保育園食育指導の充実	・「食を営む力」を育むため、保護者・地域との連携を深め、食べることや命への関心を高め、子どもの健やかな心と身体の健全育成を促す。	A	・地域の産直、農家の人との交流を通し、食べ物についての関心を高めた、 ・文化祭では、「給食コーナー」の展示を行い、保護者、祖父母、地域の人たちに食育について啓蒙できた。
7	職員の資質向上	・地域住民に信頼される保育実践と力量を持った保育者を目指す ・外部講師による「子どもの脳の発達と身体リズム運動遊び」の学習をする ・保護者と共に「たくましい子像」について学びあう。	A	・園の行事にお呼びして保育を見て頂くことで、保育力も向上している。 ・昨年に続き、4園で宮城学院大学「磯部裕子教授」の講義を2回受け、子どもの思いに気づくエピソード記述記入について学んだ。 ・保護者支援として「保護者保育体験」を受け入れ、保育を見てもらい、個別面談することで、職員の資質も高まっている。